

第百十六回楽々俳句会(ちば)

令和七年二月六日(木) 晴

会場 活動センター 十時集合 投句三句

席題 節分

武久 2 節分や鬼になりきるおはなし会 今日子

久 2 介護士へ張りある声の鬼は外 成子

久 1 伏えてみる心の内で「鬼は外」 武彦

武 1 3 落ちてより色鮮やかな寒椿 育子

久 1 2 単線のホーム彩る野水仙 粹歩

久 1 2 虎落笛ホームに流る「遅延」文字 恵美子

久 1 1 節分の豆踏みうさを晴らしけり 育子

武 2 幸願いちいさな声で「福は内」 弘子

武 2 節分やしじまの暮れの梵鐘の音 信雄

武 2 冬ざれや雨戸を引きし手の力む 今日子

久 2 厄落し店主と二人の笑い声 豊隆

久 1 墨絵なる靄の島々冬の瀬戸 恵美子

久 1 寒卵こんこんこつん朝の卓 成子

久 荒川の都電に添へる冬そうび 武彦

2 1 福柁の僧の墨書や福来たる 恵美子

初笑いに「笑う門には福来る」と言うが季語ではない

また豆撒きの事だと時間的に離れすぎる

1 2 老いという果てしなき日々春の月 育子

1 2 生きていて節分の豆かみしみて 洋子

1 1 夜も更けて音遠ざかる節分会 粹歩

1 バレンタインデー苦味の残るチョコレート 武彦

3 春めいてスマホ片手のぶら散歩 宣子

2 春きざす水脈引く鳥の影やわし 宣子

2 春浅しそらみずいろに染まりみて 洋子 そらは空に

2 障子開け僧の顔出す納経所 粹歩

2 日脚伸び歩数伸して美術館 成子

1 春寒し野良猫何処に眠るやら 豊隆

1 新横綱声掛く方へ福は内 久登

1 薩摩富士吹き降す風春の香 静代

1 薩摩富士春の香の風吹き降ろす 宣子

1 鬼やらい寅のパンツの爺出番 久登

1 関取やファンへ福豆懐から 豊隆

1 老木のちよつと紅いれ梅の花 園子

1 歳重ね行事も手薄節分会 園子

蠟梅の高貴なかほり風運ぶ

風運ぶ蠟梅の香の高貴かな

節分や西南西に福を呼ぶ

啓蟄や白鳥の旅始まるや 季語重ね

相俟つて子の無き夕節分会

早朝に妙見のほこらに願をかけ

節分や春がそこまで否やかな 季語重ね

節分に聞こし召しての拝跪の吾

節分や老若ともに豆拾う

節分や一日ずれの恵方巻

悴む手息吹きかけてページめくる

節分や去年の柀残す門

おでん鍋新旧色の違いあり

参加者 成子・育子・静代・恵美子・宣子・洋子・弘子・園子

・今日子

豊隆・粹歩・武彦・久登

欠席 ・ミチ子・利太郎

次回予定

三月六日(木) 兼題「猫の恋」 十時活動センター

四月十日(木) 兼題「沈丁花」 十時活動センター

五月八日(木) 兼題「南風」 十時活動センター